

## 【2024年6月 月間予定表 一東野校一】

6月の予定		
1	土	～学習報告会期間～
2	日	
3	月	
4	火	
5	水	休校日
6	木	
7	金	
8	土	13:30-16:00 高校入試分析会 (湘江南校) 15:30-18:00 高校入試分析会 (湘江北校)
9	日	※6月8日(土) 休校日(東野校)
10	月	
11	火	
12	水	休校日
13	木	
14	金	
15	土	『定期テスト攻略講座』(音羽・安祥寺中対象)
16	日	『定期テスト攻略講座』(音羽・安祥寺中対象)
17	月	
18	火	
19	水	休校日
20	木	
21	金	
22	土	『定期テスト攻略講座』(花山中対象)
23	日	『定期テスト攻略講座』(花山中対象)
24	月	
25	火	
26	水	休校日
27	木	
28	金	
29	土	
30	日	

※諸事情により予定を一部変更する場合があります。

## 【4月度のMVP】

【中3】

- H・Y くん
- Y・S さん

全校舎の第1回Vもしランキングに  
見事ランクイン!!!

## 6月行事について

●入試分析会・・・中学・高校入試の総括と、来年度入試の展望をお伝えします。

【偉くなくとも、優しく生きる】

保護者の皆様、いつもお世話になっております。  
今回は私の大好きな作家、宮沢賢治のお話。  
実は、賢治が生前に出した本はわずか2冊だけ。  
しかも出してくれる出版社はなく、自費で作った2冊です。その上まったく売れずじまい。  
若い頃の宮沢賢治は、家出をして東京で一人暮らしをしていた時期があります。  
ある日、賢治のもとに、お父さんから電報が届きます。  
「トシコビョウキ スグカエレ チチ」  
子供の頃から賢治の一番の理解者だった妹のとし子。賢治が誰よりもかわいがっていた妹です。  
岩手に戻ると、とし子の肺は結核菌におかされていました。  
その頃は結核に効く薬はなく、この病気にかければ死ぬ人が多かった時代。  
「東京に戻らなくていいの？」と聞くととし子に対して、賢治は、「ああ、心配するな。これからはとし子のそばにいて詩や童話を書く」。

それからというもの、とし子は体調がいいと賢治に童話を読んでくれとせがんだ。  
賢治はこのとき24歳。とし子は22歳でしたが、まるで子どものように目をキラキラさせ、  
ときには涙ぐんで賢治の童話に聞き惚れたようでした。  
しかし、とし子の病状は悪くなる一方でした。  
そして、1922年11月27日、とし子は24歳で帰らぬ人となります。  
このとき、賢治は押入を開けて、布団をかぶって、おいおい泣きじゃくったそうです…。

賢治がとし子のことを詠った「永訣(えいけつ)の朝」という詩があります。  
高熱を出して苦しうなとし子が「みぞれを食べたい」とつぶやき、賢治は庭に飛び出し、空から降るみぞれを集めて、それをとし子の口に運びました。  
そのときを詩にしたものです。

きょうのうちに とおくへ いってしまう わたくしの いもうとよ  
みぞれがふって おもては へんに あかるいのだ

ああ とし子 死ぬという いまごろになって  
わたくしを いっしょう あかるく するために  
こんな さっぱりした 雪のひとわんを おまえは わたくしに たのんだのだ  
ありがとう わたくしの けなげな いもうとよ  
わたくしも まっすぐに すずんでいくから

おまえが たべる この ふたわんの ゆきに  
わたくしは いま こころから いのる  
どうか これが 天上のアイスクリームになって  
やがては おまえとみんなとに 聖(きよ)い資糧(かて)を もたらすように  
わたくしの すべての さいわいを かけて ねがう

悲しくもあり、そして、美しい詩です。  
大切な人の死と真正面から向き合ったこの体験が、代表作「銀河鉄道の夜」を生み出します。

賢治は、子どもの頃、父親に「大きくなったら、何になる？」と聞かれて、こう答えました。  
「何になるかわからない。でも、偉い人だけにだけはなりたくない」  
その言葉どおり、賢治は、有名にもならず、偉くもならず、37歳でとし子と同じ病気で死んでいきました。

偉い人よりも、人のために働く、そんな人になりたかった賢治。  
賢治は岩手の農業高校で、教師をやっていましたが、教師を辞めて、農民になろうとしました。  
「私は、もっと土にまみれて働きたいのです。教師をして、生徒たちを立派な農民に育てるのも大切な仕事です。でも、それだけでは、本当の農民の苦しみはわかりません。  
雨が降れば大水でたんぼを流され、日照りが続けば、稲の枯れるのをじっと見ているよりほかに何もできない人たち。その人たちのことを思うと、のんびり教師などしてられないのです。その人たちと一緒に働いて、その人たちのために、いままぐ役に立ちたいのです」

生涯に出した本はわずか2冊。しかも出してくれる出版社はなく自費出版。  
その上、売れなかった…。

教師という安定した職業も辞めてしまった…。そして37歳の若さで亡くなる…。

賢治は、偉い人よりも、ただただ人のために働く人になりたかった。  
妹のために…。農民のために…。

雨ニモマケズ 風ニモマケズ  
雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ 丈夫ナカラダヲモチ  
欲ハナク 決シテイカラズ イツモシズカニワラツテイル・・・

この詩は、発表されるために作られたものではなく、賢治の手帳に書かれていたもので、死後、トランクで見つかったものです。これこそが、賢治のありのままの気持ちだったのでしょうか。

みんなに「デクノボー」と呼ばれ、褒められもしない。心配もされない。

でも、それでいい。それがいい。  
東に病気の子どもがあれば行って看病してやり、  
西に疲れた母があれば行ってその稲の束を背負ってあげられたら…、  
誰かのために生きた人生ならば、それこそ最高じゃないか。  
宮沢賢治はそのことを私に教えてくれた人です。  
賢治の思い、あなたに届け。

ソウイフモノニ ワタシハナリタイ

塾長 山田 大介